

# 離婚問題の構造：共感可能性、欺瞞、 解決

金子勝・大澤真幸『共同取材  
い思想的現実を見る』第一章

見たくな

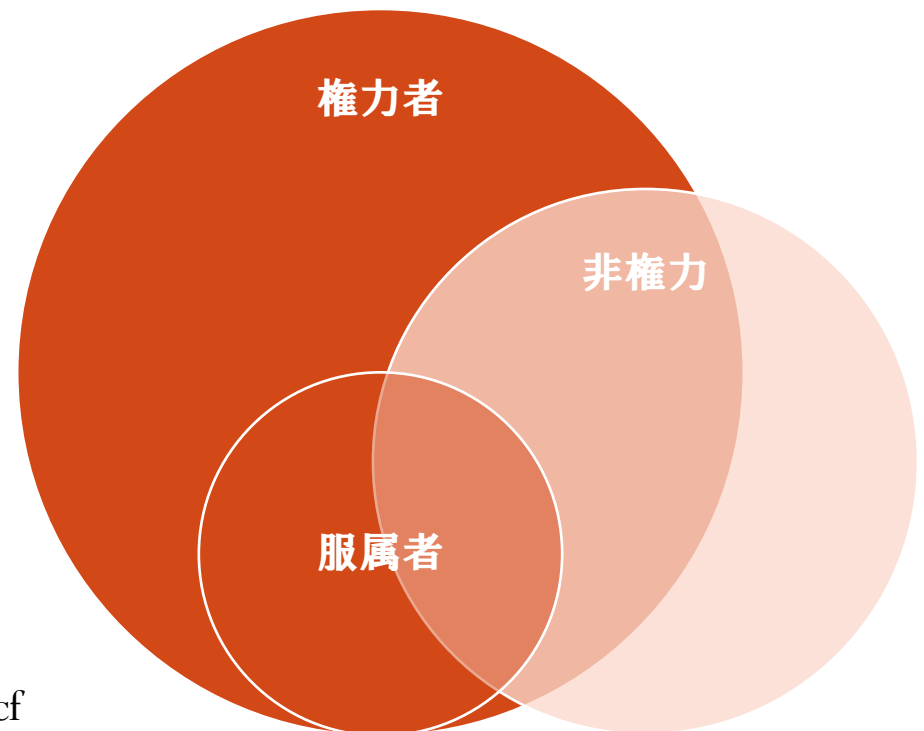
鈴木繁夫

# 超越論的立場


- 非権力による、責任を引き受ける偽装
- 権力 vs 服属者(Subaltern)
- 非権力 vs 服属者

「これは、中心と周辺へと二極分解していく資本主義的な世界システムの生み出す悲惨である。われわれもこの同じシステムの中に組み込まれている以上、システムの鉄の法則によってがんじがらめになっているのであって、あのスラムのストリート・チルドレンと同じ悲惨を分有しているのだ」

[http://blog.goo.ne.jp/rebellion\\_2006/e/cf400f10f78ec487ef6e3f05a1a528ce](http://blog.goo.ne.jp/rebellion_2006/e/cf400f10f78ec487ef6e3f05a1a528ce)

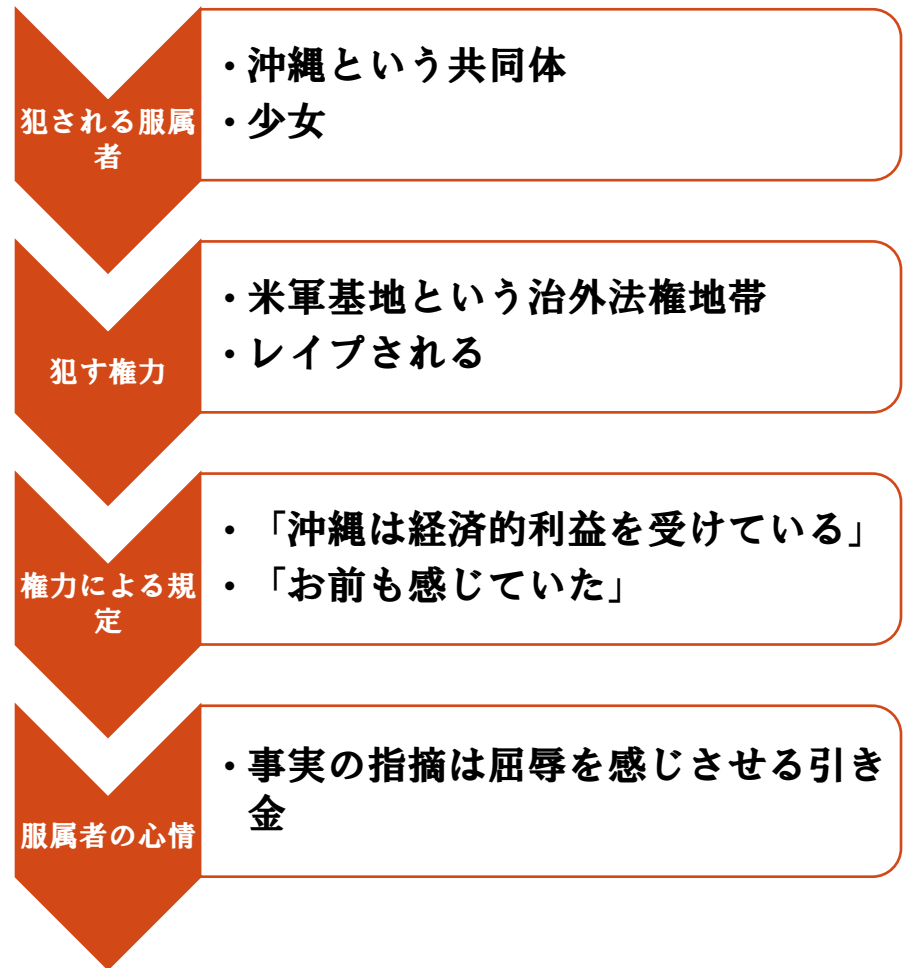


# 偽装した公共空間の設定

- 「われわれ」（非権力NP）と「沖縄人」（服属者S）
- NPによる、NPとSを包括する普遍的な公共空間（SP）を措定
- NPにとっての、SPは社会的なりアリティをもつ
- NPにとって、Sの苦難はNPの苦難
- NPはSの苦悩を生きているという錯覚
-  この構造を理解しても、構造は乗り越えられない

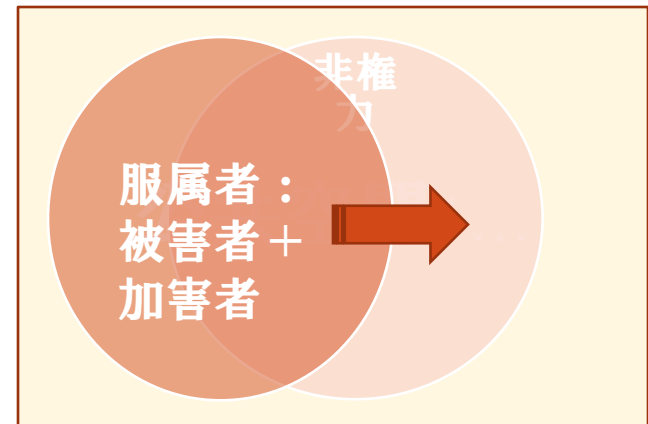
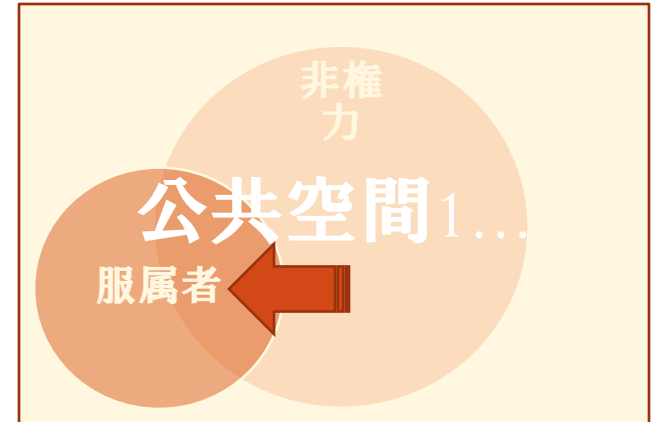
# レイプ

- 障害行為を越える暴力性を感じる
- 私的核
  - 個人のアイデンティティの中核要素として内在性
  - 自分の物として承認できない外在性
- 私的核の暴露化→大きな屈辱



# 非権力 vs 服属者

- **非権力 vs 服属者**
  - NPは加害者でありながら、Sと同様に被害者である
  - 既存の公共空間の加害者性が隠れてしまう
- **服属者 = 加害者  $\cap$  被害者**
  - 加害の汚点を自ら引き受ける
  - 非権力と服属者との相互排除が薄くなる
  - 公共空間の無限拡張性



# 被／加害者意識

- **なにが被／加害者意識をもたせるのか？**

- **大沢の回答**

- いまの生きている自分を成り立たせている過去への記憶
- 家庭、両親、国の歴史

- **鈴木の回答**

- 自己への内的沈潜
  - 自他の区別の実在性と幻想性→被／加の／を薄くする
- 自己懺悔
  - 過去の自分が犯した「悪行」、自分が受けてきた「善行」の想起と告白